



한청통신

HANCHUNG TONGSIN

No.001 2008年7月号

今号のラインナップ：6.15 民族統一大会が盛大に開催／韓青代表団感想文・共同決議文（全文）

情勢 NEWS／各地方統一イベント報告／ろくそくデモ連帯集会／

全国支部紹介／活動予定

6.15 民族統一大会が盛大に開催!



6・15 共同宣言実践民族共同委員会（6・15 民族共同委員会、白樂晴、安京浩、郭東儀、文東煥共同委員長）は、6月15日から16日まで金剛山で「6・15 共同宣言発表8周年記念民族統一大会」（6・15 民族統一大会）を開き、韓青からも4人（文世賢中央本部委員長、李俊一兵庫県本部委員長、白康喜三重県本部委員長、金広華東京本部常任委員）が代表団として参加し、大会の成功に寄与しました。

6・15 民族統一大会には南側から258人、北側から約100人、海外側から郭東儀共同委員長、孫亨根副議長を団長とする韓統連・韓青代表団を含む日本地域委員会をはじめ79人の代表らが参加しました。15日に開かれた本行事の「6・15 共同宣言と10・4宣言履行のための民族大会」（民族大会）では、①6・15 共同宣言を民族共同の統一大綱として、変わることなく高く掲げていく②民族の和解と統一を阻む、あらゆる対決と分裂策動を断固阻止する——など、5項目の「共同決議文」を採択しました。

今回の大会は、進行が円滑にされたとは言いがたく、共同決意文の採択までに多くの困難がありました。特に開幕式と閉幕式が大きく遅延しました。原因は、南側の一部勢力からの本大会における北側、海外側代表の演説文や共同

決意文に対するクレームが主でしたが、その内容は①「わが民族同士」②「非核・開放 3000」に対する批判③ロクソクデモ④韓米同盟優先批判 ⑤先制攻撃論に対して記述の削除・修正というものでした。6.15 共同宣言そのものを否定しかねない内容であり、到底受け入れられるものではなかったため、事前論議が難航し、開幕式、本大会の遅延を招きました。

結局、本大会では北側の安京浩委員長が、「歴史的な宣言とわが民族同士の理念は、いわゆる『非核・開放・3000』とか、『実用主義』とかいうことが不当だというのが今日の現実」と指摘し、「統一問題を対米関係に隷属させて、われわれの運命を他人に差し出すに等しい『韓米同盟優先論』を許すことはできない」と主張。また、海外側の郭東儀委員長も「いま南側で赤々と燃えあがるロウソクの灯りこそが今日の情勢の特徴であり、それが南側の民心だ」と指摘することによって、南側の一部勢力のクレームを一蹴しました。これにより、南側一部勢力が会場を退席するなど、多少の混乱は見られたものの、大多数の北、南、海外の統一人士たちの団結した力によって無事大会は成功し、6.15宣言の死守と10.4宣言の誠実な履行が約束されました。また他にも、南北海外共同写真展や金剛山共同登山、晩餐会なども進行され、南北海外の同胞同士、より一層の団結を高めていきました。

韓国の李明博政権発足後、南北関係が停滞している中、本来の開催地であるソウルから金剛山へと場所を移し、全民族の知恵と努力によって今回の大会は大成功に終わりました。祖国の統一に向けてまた大きな一歩が刻まれたといえるでしょう。

6.15民族統一大会 代表団感想文



「わたしが見た初めての北部祖国」

東京本部 キム・カンファ

多くの緊張を抱えながら参加した訪北代表団。

私が見た「6・15 民族統一大会」は、それまでの私の価値観を、大きく揺さぶるものでした。

まず、その場の「空気」に圧倒されました。南・北・海外の 400 人を越える同胞が統一を願い、同じ場所にいました。生まれた場所は違えど、同じ言葉と同じ想いを

胸に金剛山を見上げている。この大会を取り巻く空気の絶対的な強さや美しさに圧倒され、言葉を失いました。世界中の同胞が統一を願っている。テレビや新聞の向こう側だと思っていた「世界中」という言葉をこれほどまでに、臨場感をもって体感したのは初めてでした。

また、「韓青」であることをこれほど誇りに感じたことはありません。滞在した 8 日間、「韓統連」「韓青」と名乗るたび、身の丈を超えるほどの歓待を受けました。国内での韓統連、韓青に対する正当な評価を初めて目の当たりにし、ひどく感動しました。自分のいる「韓青」のすばらしさを南北海外の同志たちが逆に教えてくれたのです。韓統連や韓青は、統一運動の参画団体ではなく、先駆者・開拓者・指導者であることを、同志たちは語ってくれました。

15 日夜に行われた宴。豪華な食事ときらびやかなシャンデリア。まさに晩餐会の名にふさわしい華やかなものでしたが、同じテーブルについた南側の青年がこれを見てくれと迫ってきました。彼はカメラマンでした。そこには大勢の中高生がデモに参加する様子が写っていました。テレビや新聞では報道されない田舎町でも、2 万人以上の人々が集まっているそうです。今日も南側では至るところで촛불시위（ろうそくデモ）をやっているんだ、と彼は語りました。大会中、郭東儀委員長の発言に神経質になっていた政治家たちと、私に熱く訴える青年の温度差を間近に見ました。自主を守るために民族全体が立ち上がる瞬間を感じていました。

深夜から行われた青年モイム。おおいに語り、おおいに飲み明かし、歌を歌いました。楽しく歌っていたはずが、「イムジンガン」が流れた瞬間、涙がぼろぼろこぼれました。突如泣き出した私に、先輩たちが肩を抱き、背中を叩き、頭を撫でてくれればくれるほど涙が止まらず、困りました。日本での悪質な報道を知らないはずはないのに、本当に優しくしてくれた北の人たち。キャンドルを持って声を上げるおかつば頭の少女たち。訪北に猛反対した家族。エールとともに送り出してくれた先輩、仲間たち。ウリマルが出来ない私を慮って「パッチギ」の話題を出し、「イムジンガン」を歌ってくれた南の青年たち。そのどれもこれもが、たまらなく胸に迫り、気づけば子どものように泣きじゃくっていました。

韓青に出会うまで「北朝鮮」と呼んでいたあの国。韓青に出会ってから、少し遠慮がちに「北」と呼び、勉強を重ねても、近く感じなかったあの国。今回の訪北で、「あの国」は私の「北部祖国」になりました。笑顔で手を振ってくれた北の子どもたちは、紛れもない家族です。若い家族たちにいつでも会えるように、1 日でも早く統一を実現しなければならないと胸に刻んだ 8 日間でした。



「ペクの平壤日記」

三重県本部 ペク・カンヒ

在日同胞のみなさん、あにやしみか？韓青三重のペッカカンヒです。北部祖国へ行ってきました！みなさんのご支援のおかげで、代表団として大会に参加することができました。心から感謝を申し上げます！

さて、長いと思われた一週間も、今思えばあっという間の出来事でしたね。印象に残っている部分を書き綴っていきたいと思います。（まじ

めな話は民族時報参照）

まずは、高麗航空。「おっ！結構いい雰囲気出してるねえ。」って感じの外観。中も凄い！近鉄の特急よりも狭いんですよ。そして、赤い制服を身に付けた客室乗務員が通路狭しとワゴンサービス。彼女らの額に光る汗。で、ワゴンサービスで飲んだのが「梨のサイダー」。冷えてないですよ。でも、素朴な感じでおいしかったです。帰りもその飛行機に乗ったんですが、機内食で「ハンバーガー」らしきものが出てきました。そのときに飲んだ水でお腹をやられたような…(多分)。

そして、おいしいご飯！基本的に野菜がおいしい。フルコースの食事、ビュッフェ形式、冷麺、山盛りのレバ刺し、どれもおいしかった！とくにお気に入り、白い寒天のようなもの（結局、なんなのかわからないままだ…）。あと、ビールがうまかった！南側のビールは味が薄いですが、北側はビールがうまかった。

街並みが素晴らしかった！中央委員長いわく、「川の使いかたが上手い！川に平行に街が作られていて、美しい。」らしいです。本気でそう思っていると思います。だって、この代表団日程中に10回以上聞きました。ま、川の使いかたは置いておいて、街並みは「絵はがき」のようにきれいです。

そして何より、北部祖国の「民族」というものに対する想いが熱かった！北部祖国に暮らす全員に聞いたわけではないですよ。しかしね、わが北部祖国は、「わが民族」というものに対する意識が高い！僕らの民族は、長い歴史を朝鮮半島で過ごし、またその歴史は外から来る他国・他民族から自分たちの民族を守る「闘いの歴史」であり、その精神を脈々と受け継いでいるのが北部祖国だったように感じます。

そんなこんなで、日本の中で生活していると、なかなか見えない祖国のありのままの姿を見ることができましたし、逆に、日本社会が如何に「色眼鏡」のレンズの中心で北部祖国を覗き込んでいるのが分かりました。しかし、それは「自分の身をそこに置いてみる」ということから分かることであり、理屈だけでは分からないものなんだと思います。ぜひぜひ、これをご覧になっているみなさんと一緒に、また行きたいですね。なんと言ったって私たちの「祖国」ですからね。

韓青通信創刊おめでとう

李 英 鎬

韓青通信創刊おめでとう

韓青大阪OB

丁 恒 臣

民族統一大会共同決議文（全文）

今日、わが民族は、自主平和、統一繁栄の新しい時代を切り開く過程で、歴史的な六・一五共同宣言発表八周年を迎えている。

六・一五共同宣言が発表されることで、祖国統一運動は明確な目標を持って、民族の意思と要求にそって前進できるようになり、全民族が和解し協力し、統一へと進む歴史の新しい時代が切り開かれるようになった。特に、昨年の十・四宣言の採択は、自主統一時代の前進を一層力強く推し進め、祖国統一運動を新たな高い段階へと発展させた民族史的なできごとだった。

しかし今、自主統一に向かう民族の前には、実に大きな障害がつくられている。大勢の流れに逆行する不信と反目、対決の障壁が築かれている。われわれは、全民族の変わらぬ志向と意思にしたがって反六・一五の逆風を押し返し、民族の和合と統一の道を先頭に立って切り開いていくという、強い意志を集め、以下のとおり決議する。

一、六・一五共同宣言を民族共同の統一大綱として、変わることなく高く掲げていくだろう

六・一五共同宣言は、さる八年間、民族の祖国統一運動を力強く推し進めてきた自主統一の歴史的里程標だ。

われわれは情勢が変わり、環境が変化しても、六・一五共同宣言と実践綱領である十・四宣言を最後まで固守し、その基本精神である、「わが民族同士」力を合わせて民族の平和と統一を成し遂げていく。

われわれは、民族共同の要求と利益を最優先し、事大主義と外勢依存を徹底して排撃する。

われわれは、すでに内外に宣言したとおり、共同宣言が発表された六月十五日を、民族共同の記念日に制定するための多様な活動を積極的に展開していく。

二、民族の和解と統一を阻む、あらゆる対決と分裂策動を断固阻止するだろう。

南と北が和解し団結していこうというのが、六・一五共同宣言と十・四宣言の精神だ。われわれは、民族の志向と要求に背を向け、六・一五共同宣言と十・四宣言に反して、同族の間に不信と対決を求めるとのような主張と行為にも反対し排撃するだろう。

これとともに、民族の和合と統一に抵触する法的、制度的障害を除去するため、積極的に努力する。

われわれは、冒険的な武力増強と戦争策動に反対し、この地の強固な平和と民族の安全を守るための反戦平和運動を、これからも先頭にたって展開していく。

三、わが民族に対する外勢の挑戦と干渉を克服し、民族の尊厳と利益、自主権を固守するための全民族的な運動をたゆまず繰り上げていくだろう。

民族の尊厳と自主権を守るため、各界各層が大衆的な闘争を展開することは、きわめて正当で義のあることだ。

われわれは、民族問題、統一問題に対して外勢の不当な圧力と干渉を排撃し、自主的な尊厳と権利を守るため、先頭で努力していく。

われわれは、外勢が歴史的にわが民族にもたらしたあらゆる精神的、物質的被害と犯罪行為を暴露し、謝罪を勝ち取るため、全民族的、国際的連帯活動を積極的に展開する。

特に、われわれは、日本当局の在日同胞に対する過酷な政治的迫害と弾圧蛮行、独島強奪企図と歴史わい曲策動を絶対に容認してはならない。

四、六・一五共同宣言と十・四宣言を支持し、その履行のため、内外の各界の政党、団体、人士らとの連帯と団結を強化するだろう。

統一愛国力量の大団結を実現することは、つくりだされた情勢の切迫した要求であり、全民族の叫びだ。われわれは、階級と階層、地域と所属、主義主張の差異を超えて、民族的大業を優先して固くひとつに団結する。

われわれは、六・一五共同宣言と十・四宣言を支持し、祖国の平和と統一を願う国内外の各階層、政党、団体との連帯と共同行動を活発に展開していく。

五、六・一五民族共同委員会を拡大強化し、その役割をより高めていくだろう。

六・一五民族共同委員会は、南と北、海外の各党、各派、各界各層を最も幅広く網羅した、全民族的な統一運動の連帯組織であり、祖国統一運動の強力な推進力だ。

六・一五民族共同委員会の各地域委員会間の連帯運動をより積極化し、階層別、部門別、地域別団体間の多方面の接触と統一への会合を通して、引き続き隊列を広げ、南、北、海外の部門別連帯組織を拡大していく。

六・一五民族共同委員会に対する全民族的な支持と関心を高めるための、多様な統一愛国運動を積極的に展開し、各階層の大衆のなかに入っていく、ともに呼吸し活動し、全民族を六・一五共同宣言と十・四宣言の実践へと積極的に導いていく。

全民族がわれわれを見守っている。

われわれすべてが、祖国統一に対する確固とした信念と樂觀をもち、再度、六・一五の熱風を力強く呼び起こし、自主統一と平和繁栄の新しい時代を力強く迎えよう！

六・一五共同宣言と十・四宣言履行のための民族大会

二〇〇八年六月十五日

金剛山



情勢NEWS

＜米国産牛肉輸入開放反対！李明博大統領に NO！＞

韓国の李明博大統領が、民衆からの厳しい審判に直面している。その引き金となったのが、4月18日の韓米首脳会談で電撃合意された「骨なし」、「生後30ヶ月以下」などの米国産牛肉全面開放である。民衆の安全・生活をまったく考慮していない李明博政権の失態に、民衆の怒りが爆発した。

韓国人は遺伝的にBSEに感染しやすいという政府専門家の検討報告書や、メディアでその危険性が取りざたされる中、5月2日に高校2年生の学生がインターネットでキャンドルデモを提案すると、直ちに中高生たち、市民たちが熱く応え、全国的なキャンドル文化祭、そして集会へと発展した。

これに対し李明博大統領は、米国産牛肉の安全性ばかりを強調し、「食べなければすむことではないか」などと無責任な発言をしたあげく、市民デモに対して放水車で応戦、女子学生にも容赦ない暴行を加えるなど多数の負傷者と連行者を出すなど、対応は傲慢で強行一辺倒であった。インターネット上では、「盧武鉉は朝・中・東（朝鮮日報、中央日報、東亜日報）と闘ったが、李明博は小・中・高と闘う」と揶揄される始末だ。

しかし圧力・弾圧に屈しない民衆は、6月民主抗

争21周年となる6月10日に、ソウルでの70万人をはじめ全国で100万人を超える人々が街頭にくり出し、「牛肉輸入再交渉」、「李明博退陣」を叫んで、夜明けまで大規模な都心デモを行った。ロウソクの怒りの炎は現在もとどまることなく広がり続けている。

このように衰えることの無い韓国民衆の怒りに対し、政府も対応を変えざるを得なくなった。6月10日に全閣僚が辞表を提出し、19日には再び李大統領が謝罪。また、韓国政府は米国との4月の合意を補完する「追加交渉」も先日おこなった。しかし、結局輸入は継続することになり、国民の怒りは収まりそうもない。

李明博政権は米国追従政策を見直し、一日も早く6・15共同宣言に基づく民族視点、庶民とともにする民衆視点に立ちかえらなければ、一層厳しい審判を受けることになるだろう。



炭火焼肉・韓国酒家

ビヤンド

<http://www.biyangdo.com> ～飛楊鳥～

〒108-0014 港区芝 5-22-6 TEL 03-3453-2383

☆ご宴会・ご会合に2・3Fのお座敷をご利用ください

(各階40名様まで)

ばんすい

焼肉 晩 翠

〒108-0014 東京都港区芝 5-23-10
TEL & FAX 3452-0061

活動紹介

各地方で統一イベント開催



6・15 共同宣言発表八周年を迎えた今年2008年も、近畿各地で韓青が関わる形で様々なマダンが行われました。

大阪では6月1日に「第15回統一マダン生野」が生野区の新今里公園で開かれ、在日同胞と日本人らが多数参加し、大いに盛り上がりました。舞台ではテコンドー演武やフォークソングなど、地元の同胞と日本人による多彩な公演が行われました。また、北側オリニ栄養パン工場事業本部が、平壤のパン工場で作られたパンの試食を行いながら事業への支援を訴えました。

続いて6月8日には京都で、韓青をはじめとした在日同胞青年学生団体4者で構成する、ワンコリア青年学生協議会が「ハンコリアマダン2008」を行いました。会場には在日青年同胞、周辺に住んでいる日本人の方など多くの人たちが来場し、メイン企画となった韓国のシンガーソングライターのハンドル氏による公演では、会場が一体となって大いに盛り上がりました。

そして6・15 共同宣言発表8周年記念日である6月15日には、「第12回統一マダン神戸」が神戸市のJR新長田駅前広場で開かれました。舞台では、ウリハッキョの子どもたちのサムルノリや太鼓の舞い、ブラスバンドなどが行われ、韓青もサムルノリやプンムル、統一ノレ「京義線に乗って」にあわせた律動を行いました。

すべてのマダンのフィナーレには、参加者全員が「マダンに集まった人たちの力を結集して、祖国統一を一日でも早く成し遂げることを誓い合いながら、共に「われらの願いは統一」を合唱しました。

国内ろうそくデモ連帯集会

情勢報告のコーナーで、BSE問題に関する韓国のロウソク集会について説明がありましたが、私たち也在日同胞も日本で声をあげよう、この問題を知らせていこうということで、韓統連、韓青、民主女性会、学生協が呼びかけ団体となり、韓国のロウソク集会に連帯する街頭情宣を東京（北千住駅前：15日）・神奈川（横浜ジャックモール：15日）・大阪（鶴橋駅前：14日）で行ないました。

通行人はビラを受け取り、「韓国の100万人ロウソクデモに驚いた」という感想を述べたり、「食の安全は大切だからね。応援しています」と声をかけてくださる方もいました。

かんふうどう
康復堂 平山鍼灸治療院

〒984-0057
仙台市若林区三百人町179
Tel/fax 022-291-0064
E-mail nicakumi@m9.dion.ne.jp

鍼灸師 申孝信

韓青通信創刊おめでとう

権 龍 夫
李 和 美

日々是はんちゃん

～全国支部紹介～



Vol.1 東京本部 荒川支部

今号よりはじまりました、「日々是（ひびこれ）はんちゃん」このコーナーでは、韓青が全国に展開する支部の日常をレポートします。トップバッターは、韓青東京本部常荒川支部です。

～歴史学習会～



東京本部では、1年間を上半期、下半期の2期に分けて学習会を展開しています。6月は本部全体で渡航史を学習していき、上半期最終回となるこの日は、「目に見える強制連行」を学びました。この日は、葛飾支部支部常任が本部全体の学習会講師デビューでした。

満員御礼で熱気ムンムン・・・

セミナーの講師といえば、ただでさえ緊張するのに、この数。大丈夫か?と心配しましたが、今回は万全の状態で準備してきたという事もあり、時に受講生への質問も交えながら、快調に進行していきました。中には、日帝の残虐な行為に涙ぐむ青年も。あらためて私たちがここにいるルーツを学ぶことの大切さをみんなで確認できた学習会となりました。セミナー終了後は、韓国料理屋で交流会、学習会の感想を展開し、お互いの思いを近づけることができた交流会でした。

～ウリマル学習会～

水曜日はウリマルです。荒川支部では留学生の先生も交えて学習しています。

まず初めにノレ指導から。ベース音だけしか出せない、ナムチャ多し。重厚な歌声が支部全体を包み込みます。。一刻も早く、ソプラノ声のヨチャを加えなければ・・・!!

ウリマル授業は、皆真剣です。ある青年は、「昼間の仕事も手を抜かず頑張って、夜は支部に行き、自分の母国語を学ぶ、そして祖国統一を目指し、韓青活動を頑張る、青年は体力もあるし、活動しなければいけないと思うんですよ」と力強くコメント。頼もしい限りです。

授業が終われば、支部での交流会。近くで買出しするチーム、その間に支部内を整理するチームと2つに分かれて、パパッと準備します。「荒川支部では韓国語教室が終わった後、必ず交流会はしますよ。支部空間で民族心を育むのが一番ですが、皆と仲良くなって、一緒にもっと活動していきたいと思いますからね。」

交流会も大盛況。さっきまで、織田裕二のモノマネに精を出していた青年が、いきなり真剣に語りだす。民族、社会、キャンプ、マダン、戸別訪問の展開、仕事など・・・遅くまで語っても、語りつくせません。こうして、荒川の夜は更けていくのでした。



今後の活動予定

알림판

알림판

알림판

알림판

알림판

알림판

— 第 42 回韓青全国統一夏期講習会 —

日程: 2008年 7月 25日(金)~27日(日) 場所: 愛知県渥美半島(東日本) 滋賀県びわ湖(西日本)

内容: 開会式、海水浴、ディスカッション、レクリエーション、韓青文化マダン、バーベキュー、閉会式 など

第15回 統一マダン東京 — 民族はひとつ、祖国はひとつ、同胞はひとつ —

日時: 2008年 8月 3日(日)

場所: 東京都荒川区・旧真土小学校校庭

内容: 権海孝(クオン・ヘヒョ)さんトークショー、李政美(イ・ジョンミ)さんミニコンサート など

PICK UP!

2008年アツイ夏!

今年も開催! 第3回 民族文化学校

— 昨年から毎年開催されている『民族文化学校』。今年は、「在日コリアン青年、韓国大学生・青年とともに民族文化と歴史を探訪」をテーマに開催されることになりました。日程は、大学生・高校生が夏休みの8月20日(水)から25日(月)の5泊6日です。

‘韓流’ブームの波に乗って、南側の祖国・韓国はすっかり身近な存在になりました。しかし私たちが目にするブラウン管を通しては知ることのできない本当の祖国の姿。それを見て、聞いて、触れて、感じることでできる6日間。そして国内の大学生とともに過ごすことで、さらに祖国との距離が縮まるはず。

希望に満ちた未来に向けて、今年の夏は私たちのルーツの国で、思いっきり楽しみましょう!



場所: ソウル ほか

募集人数: 20人

募集条件: 在日コリアン青年

※朝鮮半島にルーツをもつ16~30才

参加費: 現地までの往復渡航費

※イベント開催中の滞在費は無料です

主催: 青年統一文化センター プルン コンガム

協力: 在日韓国青年同盟

編・集・後・記



創刊準備号より2ヶ月、とうとうこの日がやってまいりました。韓青通信の本格発信です。どうぞ皆様ご愛読よろしくお願いします。「6.15 民族統一大会」に代表団として行って来ました。世界中のウリ民族の、統一に向けた思いを一心に浴びてきた1週間でした。この貴重な体験を、今号の特集で少しでもお伝えできれば幸いです。(李)